

## 栃木県足利市の「映像」を活用した地域活性化

本研究は栃木県足利市の映像を活用した地域活性化に関しての、足利市の取り組み方や特徴を明らかにすることを目的としたものである。調査方法としては文献調査と、実際にこの取り組みをするために足利市役所に設置された映像のまち推進課の職員へのインタビュー調査である。

先行研究では、地域ごとの大まかなロケーションの特徴や、市と作品の繋がりによる地域活性化が研究されていた。しかし、その地域の特定の建物や場所の特徴、選定理由を研究したものは管見の限り見当たらなかった。そのため、本論ではこの点に着目して、足利市の特定のロケ地について調査、研究を行った。

インタビューにより、足利市の撮影支援では「丁寧な支援」を心掛けているため、市民や制作者との信頼関係を築きながらこの取り組みを行えていることがわかった。

足利市のロケ地の分布や利用回数を整理した所、観光スポットである町中の利用が多く、特に景観が整備され、人通りが少ない北仲通りでの撮影が多いことが明らかになった。そして、その中から利用回数上位の旧足利西高等学校と、観光施設ではない個人宅と旧東映プラザ、新しく建てられた足利スクランブルシティスタジオの4つのロケ地を調査した。

調査の結果、個人宅とは空き家が多く、また旧足利西高等学校や旧東映プラザは廃墟であったりとして使用されていない建物の利用が多いことがわかった。廃墟のため、1つの建物に作り込むことができ、一通りの撮影が可能になる。これらの足利市のロケ地は、ロケ地として自由度が高いという共通の特徴を持ち、撮影地としての需要も高いと考えられる。廃墟という市にとってマイナスの要素を、この取り組みによってプラスな要素に変え、地域活性化を行っているのである。

足利市は今後、これらの建物等の利活用に加え、映像関係の会社等の誘致により、「映像と言えば足利市」のイメージを定着させようとしている。しかし、先行研究のような市と作品の繋がりのある事例に比べると、足利市の観光客増加への影響は少ないため、その点が今後の課題であるだろう。

本研究により、足利市の取り組み方の特徴は、「丁寧な支援」を心掛けていることが明らかになった。そして、足利市の特定のロケ地の特徴と選定理由としては、自由度が高く撮影しやすい廃墟や、景観の良い町並み等の撮影資源が多くあることが明らかになった。